



「消費者問題に取り組んで」

なが さき かず こ
長崎 和子

1927年(昭和2年)
秋田県鹿角郡(現鹿角市)
生まれ、南小岩在住。



何かやりたい、何か勉強したい

二人の子育てが一段落した昭和37年、東京都が経済モニター(消費者モニターの前身)を新聞で募集したんですね。頭の中に、戦争のために中途半端で学校をやめたっていうのが残っていましたから、「何かやりたい、何か勉強したい」っていう思いがあって応募しました。アンケートに答えるため、市販の食品について調べるが多くなって、もったいんなことを知る必要があると気づいたんです。

昭和43年、日本消費者協会が「消費生活コンサルタント養成講座」を開催することを聞き、これは勉強するチャンスかなと思って応募したんです。高校受験を控えた長男に刺激を与えたいという思いもありました。7、8月の暑い盛り、毎日お弁当を持って通いました。その間、実家の母が家のことを手伝いに来てくれたので大助かり。皆勤賞をもらうくらいがんばったんですよ。

その年の暮れ、東京都が有楽町の交通会館の1階に「東京都消費者センター」を開設したんです。翌年の4月、錦糸町に江東支部もできて「長崎さん近いし、ぜひ相談員に」って。最初は戸惑いましたが、二人交替で週に2、3日ということでしたので受けることにしました。

それまで、働くことになるとは夢にも思わなかったんです。姑も、民生委員や簡易裁判所の調停委員をされていましたので、私が仕事をするのに対してはだめとは言いませんでした。ただ家庭をないがしろには絶対にするまいと思っていましたから、食事や家事はさきちつとやりましたよ。

慣れないうちは何を聞かれるかしらって、びくびくでした。「わかりません」とは言えませんからね。「調べてみましょう」って言って。暇があれば本を読んでね。ありとあらゆる衣食住の本を見ましたよ。なにしろ初めてできたセンターですから、資料がないわけです。着る、食べる、住むに分けて、新聞や雑誌の切り抜きや書き写しをして資料を作るのが一苦勞でした。質疑応答も自分でまとめてね。誰でもが対応できるようにしたんです。

昭和48年、日本乳業協議会からも相談員をやってほしいと言われてかけもちしました。各県に出張して、牛乳を使ったお料理教室を開催したりしたんですよ。20年近くやりましたねえ。

江戸川区消費者センターの相談員に

昭和49年には、江戸川区が消費者センターを設立することになったんです。相談員として出てほしいと要請され、都を辞め、こちらに週4日勤めるようになりました。当初は庶民的な相談が多かったですね。梅とからつきよの漬け方を教えてくださいとか。若い男の方が電話をしてきたことがありましてね、「かぼちゃの煮方を教えてください」って。

それから「反物を裁とうと広げてみたら、色がやけていた。どうしたものでしょう」って相談にみえる。「お袖をひとつ取ったら身頃を取ってごらん下さい。それが身頃の下前になるようにすれば見えませんよ」って、お話したの。またある時は、「着心地が悪いんですけどなぜでしょう」って、夏のブラウスを持った方がみえてね。左の袖と右の袖が反対についていたんですよ。和裁や洋裁をやっていてよかったと思いましたね。

壺とか印鑑、消火器の訪問販売の相談も多かったですよ。それから豊田商事の事件ってありましたでしょ。金の延べ棒を買わされるペーパー商法ですね。クリーニングに関する相談も多かったですね。一度怖い思いをしましたよ。夏の上着を持ってきて、色が変だと難癖つける方がいて。見たところ全然変じゃない。「何とかしてくれないか。責任者を呼べ」って怒ってね。しまいには、吸っていた煙草や灰皿まで投げて。所長さんと二人で一所懸命なだめたんです。

とにかくね、いろんな質問がくるんですよ。なんでも相談でした。18年勤めた江戸川区消費者センターを



◆江戸川区消費者センターで相談を受ける長崎さん(昭和59年)

平成4年に辞めてからは、江戸川区社会福祉協議会が主催した福寿大学で講師をやりました。相談室でさまざまな相談を受けるなか私自身勉強になり、皆さんにも気をつけたほうがいい、知っておいたほうがいいというような話を伝えました。

消費者の会を立ち上げて

錦糸町で東京都の相談員をしていた時、昭和44年4月に「江戸川区消費者の会」を立ち上げました。主婦連合会とか東京都地域消費者連合会とか大きい消費者団体はいくつかあったんですが、都内の各区にもぼつぼつと消費者の会ができてきたんです。私たち経済モニターの経験者など4、5人が発起人になって、「江戸川区で作らしましょう」ってことで、近所の方に声をかけて「私も入るわ」って。区議会議員の似鳥幾久栄さんに会長をお願いして、私は副会長になりました。

当時は食品添加物が話題になっていました。工場でも色を良く見せようとか長持ちさせようとか添加物とか保存料を入れることが多かったんですね。今は天然のものが多くなりましたけど、合成のものは、発がん性があるって騒ぎ出しましてね。それから洗剤も問題になりました。「環境汚染の低いものにして下さい」って声をあげて、勉強会を開き、工場見学にも行きましたね。市販の食品を買い集めて表示や内容量なども調べました。

始めは60人ぐらいの会だったんですよ。みなさん家庭の主婦で、今みたいに外に出て働いている方がいなかったの。だからよく集まりましたよ。冷凍食品の共同購入や、生活改善の講習会などにも毎回7、80人は集まっていたもの。初めてのことばかりでしたが、相談員としての仕事の経験が役に立ちました。仕事をやりながらでしたから忙しかったですけど、楽しかったですね。みなさんにも喜んでもらえて、生きがいを感じるようになっていました。

昭和62年、区内に9つほどできていた消費者の会が一緒になって、「江戸川区消費者団体連絡会(消団連)」を作ったんですね。当時、江戸川区消費者の会では会長でした。消団連でも会長になって、毎年グリーンパレスで消費者展を開催したりしました。

私たちが飲んでいた水道水っておいしくなかったんです。夏は特に塩素臭かったんですよ。金町浄水場の取水口には何度も見学に行きました。毎年、水質検査をしたりして、「おいしい水を供給してください」って言い続け、昭和63年には「逆川・江戸川の浄化を求める要望書」を区に提出したんです。先日(平成22年)の水道新聞に金町浄水場の高度処理(窒素・りん除去)が100%になったって出ていました。私たちが見学に行った当時は25%と聞いていましたから、いいお水になったんですね。感慨深いですね。

江戸川区消費者の会も、一番大きくなった時は300人ぐらいいましたが、私のあと引き継いだ方が3、4年やったのかしら。

会も高齢化が進み、だんだん人が集まらなくなって消滅したんです。世の中の情勢が変わったんですね。

いつも好奇心をもって

私は昭和2年1月22日生まれです。小さい時から活発な人間でした。どんどん先に立ってなんでもやるほうでしたね。

14歳の秋、秋田県から埼玉県に移りましてね。女学校を卒業後、先生の勧めで和洋女子専門学校(和洋女子大学の前身)という和洋裁の学校に入りました。2年生の半分までは勉強できたんですが、戦争が激しくなり、兵隊さんの服のボタンつけをしたり兵器を詰めて運んだりと勤労奉仕ばかり。勉強が全然できないんで学校を辞めたんです。

専門学校の友だちから「うちのいとこのところへ来てくれないか」って言われて何回か会って、友だちのいとこが夫になったんです。昭和24年、22歳で小岩にお嫁に来た時は大変だったんです。大家族の中で育ち、ご飯も炊いたことがなかったですから。できるのが当たり前と思われていますからね、誰にも聞けないんですよ。自分で薪に火を焚きつけて、何度釜のふたを取ったかわからない。自分で経験しながらやっていくしかなかったんですね。今では笑えますけど。

12年前に脳梗塞で倒れた時、数日前から左の足首がおかしいやな予感がしたんです。「東京地域団体消費者連合会」の会計を担当していましたから他の役員の方に預かっていたお金を書留で送った翌朝、目が覚めると左の手足が動かなくなっていたんです。リハビリを半年間泣きながらやりました。

入院から3か月くらいたったころ、経済企画庁から消費者保護功労者として表彰をいただいたんです。入院中で水戸での表彰式には行けなかったんですが、都庁の方が突然、表彰状と記念品の置時計を持って病院にいらしてくださいました。これまでの活動を認めていただいたんだなとうれしかったですね。

人間って生きている限り努力しなくちゃいけない。今も毎日、半日かけて新聞を読んでいます。いくつになっても知らないことって結構ありますからね。人とお話しすることも大事ですね。人から学ぶことは大きいですからね。「人間、一生勉強なんだよ」っていう父の言葉を思い出します。年だからってあきらめないで、いつまでも好奇心を絶やさず、貪欲に生きるように努めています。

今年からちぎり絵を始めました。「くすのきクラブ小岩駅前福寿会」の6代目会長を10年やりまして、今は会計を担当しています。こうして振り返ると、いろいろな経験をさせていただき、充実した人生だと思えますね。感謝しています。

